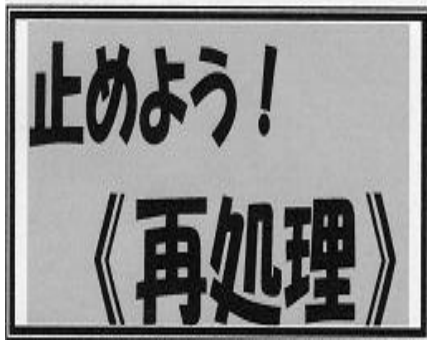


三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>
《まった再処理分庫》
<http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag>



《天恵の海》

2012(平成24)年
7月23日
第116号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

岩手県議会 請願採択 六ヶ所再処理工場の安全確保を求める

平成24年7月9日

衆・参議両院議長
内閣総理大臣 農水・経産・環境各大臣
内閣官房長官 様

岩手県議会議長 佐々木 博

六ヶ所再処理工場の安全の確保を求める意見書

六ヶ所再処理工場から放出される放射性物質から、県民の暮らしと三陸地域における水産業、農畜産業等を守るため、国において特段の措置を講ずるよう強く要望する。

理由（※ほぼ全文）

福島第一原発事故による放射能汚染の影響は、周辺住民の暮らしはもとより、農畜産業や水産業、観光業など広範囲にわたり、経済的及び精神的な被害をもたらしている。青森県六ヶ所村の再処理工場は、現行の諸制度及び各種技術等に基づき、同工場から排出される放射性物質の安全基準並びに耐震安全性は確保されているとされているが、一方で本格稼働に向けたアクティブ試験が平成18年3月31日に開始されてから、度重なるトラブルのため延長されている。

また、六ヶ所再処理工場は、これまで作業員の内部被曝やせん断機の油漏れなど事故やトラブルが発生しており、今後、地震の影響による電源喪失や冷却パイプの破断等により冷却機能が失われれば、福島第一原子力発電所事故を超える大惨事となる恐れがあるとの指摘がされている。よって、国においては、六ヶ所再処理工場から放出される放射性物質から、県民の暮らしと三陸地域における水産業、農畜産業等を守るため、六ヶ所再処理工場に貯蔵されている高レベル放射性廃液の安全管理を徹底し、万が一、環境中に漏出させた場合、生命や暮らしを脅かすことのないよう防護策を講じるよう強く要望する。

上記のとおり地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。



請願採択の岩手県議会本会議
(岩手県議会インターネット
録画放送から)

「岩手の会」提出の「六ヶ所再処理工場の安全確保を求める意見書」は全員一致で可決され、議員発議の「原発再稼働に慎重な対応を国に求める意見書」も採択されました。

国へ意見書提出 高レベル放射性廃液の徹底安全管理 万が一の場合の命と暮らしへの防護策を

岩手県議会は七月九日の本会議において、「岩手の会」が提出していた六ヶ所再処理工場に関する請願の一部を全会一致で可決し採択しました。

「岩手の会」の請願は1、高レベル放射性廃液の徹底安全管理 2、使用済み核燃料はそのまま再処理を凍結し、永久貯蔵する直接処分としその研究を各機関に働きかける、という二項目でした。

岩手県議会環境福祉委員会は調査や議論を深め、第一項目について、「高レベル放射性廃液の徹底安全管理」と、「万が一の場合の防護策」などについて各会派の一致に至り可決採択し、本会議に上程しました。

岩手県議会の決議は全国でも初めてであり六ヶ所工場の安全確保に大きな一歩が踏み出されました。



高レベル廃液の過酷事故防止 重層的「深層防護」を！

県議会の採択を受けて記者会見 岩手の会

岩手県議会の動き

2005（平成17）年10月3日

本会議請願採択 全会一致
内容：「アクティブ試験操業について慎重を期すること。三陸沿岸の環境影響評価を行うこと」

2008（平成18）年12月8日

環境福祉委員会 賛否同数で否決
内容：「岩手県を六ヶ所再処理工場の放射能汚染から守る事についての請願」

2012（平成24）年 7月9日

本会議請願採択 全会一致
国へ意見書送付
内容：「六ヶ所再処理工場の高レベル廃液の安全管理を徹底し岩手県土・県民を守ること」

原発いらない！金曜デモ 盛岡・仙台でも始まる



東北電力盛岡支店前

盛岡でも子育て中のお母さん達の呼びかけで、七月二十日（金）、約六十人が集まり脱原発行動が行われました。県庁から東北電力前まで歩道を散策して移動しました。次回は二七日（金）、正式のデモ申請をして、県庁前六時半出発予定。仙台では約二五〇人の参加のデモでした。

七月十日「岩手の会」は、県政記者クラブで記者会見を行い、岩手県議会の「六ヶ所再処理工場安全対策」の請願の一部採択について「声明」を発表しました。

記者会見で永田世話人は次の点を強調しました。

○原発事故よりも、もっと危険性が大きい再処理工場の高レベル放射性廃液について国民に十分情報が開示されていない。

○高レベル放射性廃液は六ヶ所工場に約二四〇立方メートル、東海工場に約三九三立方メートル溜まっている。これが漏れ出した場合、福島事故をはるかに上回る過酷事故となる。絶えず水を掃気

し、沸騰防止のため冷却が必要であり全電源喪失が一番恐ろしい。

○「再処理凍結・使用済み核燃料の直接処分研究」の部分が採択されなかったのは残念だが、岩手県議会が国に対して「高レベル廃液が、万が一にも命と暮らしを脅かすことのないような徹底的な安全管理を求める」という意見書を提出した意義は大きい。というものでした。

声明文要約

私達の提出した「県土・国土を再処理工場の放射能汚染から守る請願」の第1項が採択されたことについて、県議会の良識に敬意を表します。私達の訴えに

対して国や六ヶ所、東海の両再処理事業者は、福島原発事故を体験しても尚、「最悪の事態」を想定しない深層防護の立場に立っていないものです。

岩手県議会が全国に先駆けて高レベル放射性廃液による過酷事故防止のために関係機関に働きかけることは、六ヶ所、東海再処理工場に大量に貯蔵されている高レベル放射性廃液の危険性について広く国民の間に認識が共有され、真剣な安全対策を求める契機になります。この国で人びとが安心して暮らしてゆけるよう願いつつ声明とします。

7.16脱原発大集会 代々木公園に17万人以上

NHK
放送センター



撮影：野田雅也 (JVJA)

代々木公園

稼働ゼロ 57日で中断中

大飯原発 3号機 出力118万KW 加圧水型

7月1日再稼働

4号機 出力118万KW 加圧水型

7月18日再稼働

- ◇毎日ヒロシマ原爆3発分の「死の灰」生成
- ◇新に、使用済み核燃料（核分裂生成物・燃えないウラン・サヤ管など）が、1機1年で推定約100トンが発生。2機で約200トン。
- ◇放射能をなくする方法はなく巨大な崩壊熱を持つ超危険物。全国の貯蔵プールは満杯が近づく。
- ◇直下に破砕層（活断層）の存在。保安院は7月18日、再調査を指示。耐震審査指針違反の疑い。しかし同時に再稼働も指示という安全軽視！